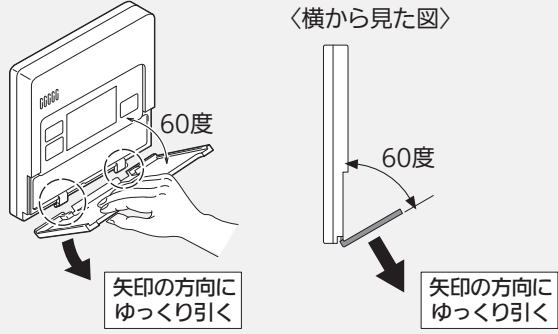


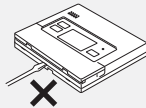
リモコン施工時の注意事項(必ずお読みください)

台所リモコンはふたを外して取り付ける

ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

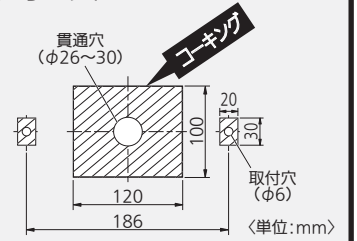


※片側のツメが外れた状態で無理に引っばるとツメが折れる場合があります。ゆっくり注意して外してください。
 ※台所リモコンは、ドライバー等でこじ開けないでください。故障するおそれがあります。

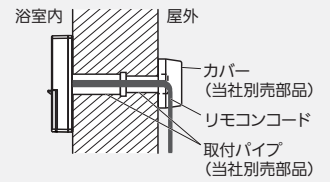


浴室リモコン施工時の厳守事項

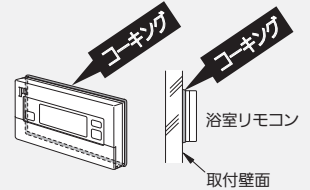
1. 溝やタイル目地のある壁の場合は、斜線部をシリコン系コーキング剤で平らにする



2. 壁貫通する場合は、屋外から水や湿気が入り込まないようにカバー、取付パイプ(当社別売部品)を取り付ける



3. 浴室リモコンと浴室壁面のすきまは全周にわたり、シリコン系コーキング剤でシールする



※水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。

MITSUBISHI

三菱 電気 給湯機用

形名	形名コード
RMC-D6SE	68E 015
RMC-6SE	68E 016
RMC-KZ6	68E 017
RMC-N6	68E 018
RMC-B6SE	68E 019

リモコンセット	サブリモコン	給湯専用リモコン
<ul style="list-style-type: none"> インターホンタイプ 形名 RMC-D6SE 浴室リモコン 台所リモコン ベーシックタイプ 形名 RMC-(B)6SE 浴室リモコン 台所リモコン 	形名 RMC-KZ6	形名 RMC-N6

- リモコンは、当社電気給湯機専用です。
- リモコンを使用しないと給湯機のわき上げが行なえません。
- 適用機種は、当社カタログ・据付工事説明書などに記載してあります。

工事説明書

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい工事が必要です。工事の前に、この「工事説明書」を必ずお読みください。この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、当社指定部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

安全のために必ずお守りください



注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつきます。



必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行う感電の原因になります。

指示に従う





板金の端面に注意するけがの原因になります。







指示に従う

1. 付属品の確認




①浴室リモコン

木ねじ <3.8×32>	オールプラグ <MILT-8>
	
2本	2個

②台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン

木ねじ <4.1×25>	タッピンねじ (皿頭) <4×10M>	Mねじ <M4×40>	オールプラグ <MILT-8>	取付板金	Y型端子 <1.25-B3A>
					
2本	1本	2本	2個	1個	2個

サブリモコンのみ

中継ケーブル	ケーブル押え	タッピンねじ (パインド頭) <4×10>
		
2本	1個	1本

※サブリモコン(RMC-KZ6)は上記部品が加わります。

2. 工事に必要な工具、部材

●工事前に準備ください。

工具	リモコン		推奨品、注意事項等
	浴室	左記以外 (※1)	
Y型端子用圧着工具	—	○	日本圧着端子製造株式会社製 YHT-2210(JIS 9711規格品)
接続端子用圧着工具	○	○	日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216
ドライバー(+ 2番)	○	○	電気ドライバー及びインパクトドライバーなどは使用禁止です。
ドライバー(-)	○	—	

部材	リモコン		当社別売部品形名
	浴室	左記以外 (※1)	
リモコン線 ※2	○	○	LM-620AまたはLM-650A
シリコン系コーキング剤	○	—	市販品
リモコン壁貫通パイプ	△	—	GT-5SEKP
補強用木片	△	—	市販品
圧着端子	△	△	市販品

※1.台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン ※2.リモコン線は、当社別売部品(形名:LM-620AまたはLM-650A)を設置条件に合わせて切断してご使用ください。

3. 接続概要図

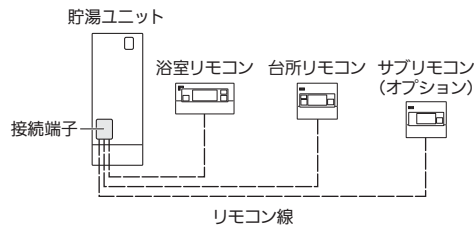
●貯湯ユニットへの接続は、貯湯ユニットに付属の据付工事説明書をご覧ください。

リモコン接続概要図

●必ず、貯湯ユニットから各リモコンまでの配線長を50m以内としてください。

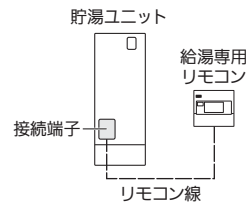
〈追いだきフルオート、エコオート〉

※本体1台に複数の浴室リモコン及び複数の台所リモコンは、接続できません。また、サブリモコンは1台のみ接続可能です。



〈給湯専用〉

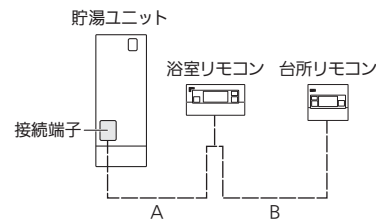
※本体1台に複数のリモコンは接続できません。
※サブリモコンは接続できません。



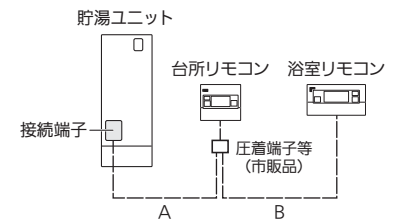
渡り配線を行う場合の接続概要図(必ず下記に従ってください。)

- 必ず、貯湯ユニットから各リモコンまでの配線長(A+B)を50m以内としてください。
- 既設のリモコン線を使用する場合、当社別売リモコンケーブル相当品(2芯式、0.3~1.65mm²、67.6Ω/km以下)としてください。ただし、浴室リモコンの接続端子を使用して共カシメを行う場合は、線径0.3mm²としてください。線径が0.3mm²以上の場合は、適合する接続端子(市販品)をご使用ください。
- 接続例2で配線する場合、台所リモコン端子台への端子の共締めは行わないでください。圧着端子を使用し、1線にまとめて接続してください。

接続例1(渡り配線時 当社推奨接続)



接続例2

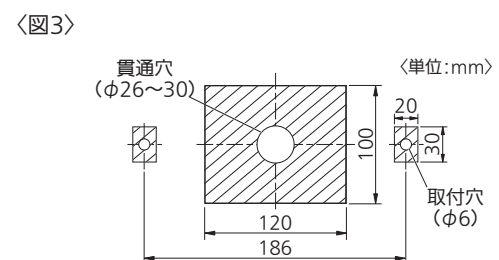
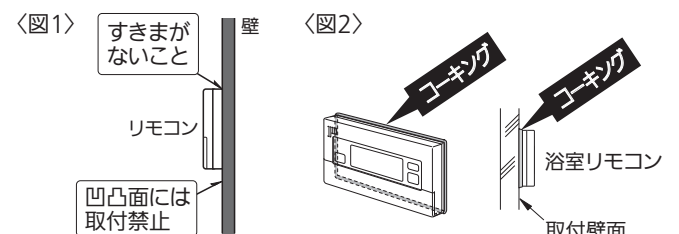


4. 取付場所の選定

共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ●必ず平らな壁面に取り付けてください。(凹凸があるとリモコンが変形して誤動作することがあります。) ●リモコン線の長さには制限があります。接続概要図(3項)を参照し、設置場所を選定してください。
台所リモコン 給湯専用リモコン サブリモコン	<ul style="list-style-type: none"> ●必ず屋内に取り付けてください。台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコンは防水タイプではありません。 ●取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(目の位置より少し下側)を選んでください。 ●無線タイプのドアホン親機に隣接し設置すると、インターホン使用時にノイズ音を発することがありますので、無線タイプのドアホン親機より50cm以上離して設置いただくことをおすすめします。 ●下記の場所には取り付けしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ○ガステーブルの近くなど高温(45℃以上)になるところ ○湿気の多いところ ○直射日光のあたるところ ○湯気や水しぶきや油のかかるところ(防水タイプではありません。) ○幼児の手が届くところ
浴室リモコン	<ul style="list-style-type: none"> ●取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところ(入浴中の目の位置)を選んでください。 ●浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取り付けてください。(設置場所の壁裏側は蒸気がかかるような場所、湿気が多い場所をさけてください。)

5. 施工上のお願い

- リモコン本体を分解しないでください。
- リモコンを直接砂の上や鉄くずのある床の上におかないでください。スピーカー部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。
- サブリモコンの単一使用はできません。
- リモコンと壁の間にすきまがないように取り付けてください。〈図1〉
- リモコン線が短絡しないように施工してください。
- リモコン線は、周囲の熱による劣化を防ぐため、高温部に触れたり、熱の影響を受けたりしないところに配線してください。
- リモコン線をコンクリートなどに埋め込む場合には、電線管(PF管など)に収め、リモコン線が傷つかないようにしてください。
- リモコン線を配線する場合、取付板金の金属端面に注意してください。
- Y型端子及び接続端子をカシメるときは、必ず当社指定の圧着工具を使用してください。また、圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
- リモコンをねじで固定する際、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは使用しないでください。破損のおそれがあります。
- 壁に穴を開けて設置する場合、穴端部の凹凸をならし、石膏ボードくず等をきれいに取り除いてからリモコンを設置してください。
- 浴室リモコンと浴室壁面のすきまは必ず全周にわたり、シリコン系コーキング剤で十分にシールしてください。水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。〈図2〉
- コンクリート壁面の溝やタイル目地など、壁面にパッキンシールに適さない凹凸がある場合は斜線部をシリコン系コーキング剤で平らにしてください。〈図3〉

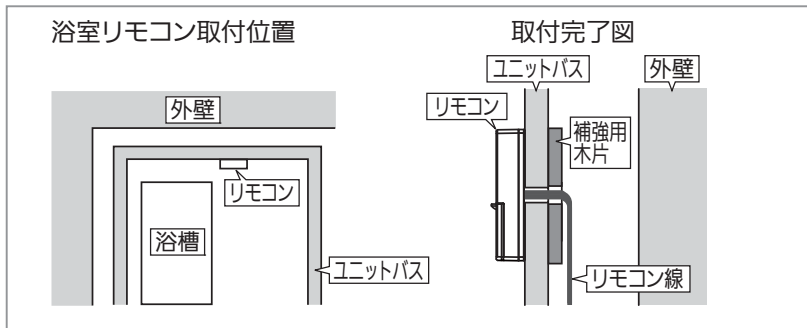


6. こんなとき

症状	確認	処置
リモコンに「H01」エラーが表示	リモコン形名を確認	機種(タンク)に応じたリモコンに交換
	貯湯ユニットに200V電源が供給されているか	200Vに交換
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換
	貯湯ユニットの電源を「切」にしてリモコン接続を行なったか	電源を「切」にしてから接続
	リモコン線に電源(12V)が通っているか	リモコン線を50m以下、及び圧着部を確実にカシメる
リモコンの電源が入らない(表示がつかない)	他の電源線と離して配線しているか	他の電源線から5cm以上離す
	リモコン線の圧着は確実か	接続端子を確実にカシメる
	リモコン線に電源(12V)が通っているか	リモコン線が断線している場合は修復
	貯湯ユニットに電源が入っているか	貯湯ユニットの電源を入れる
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換

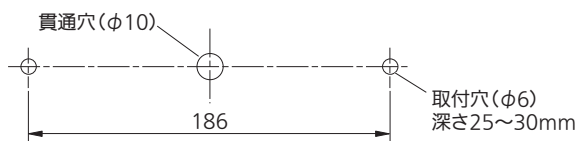
7. 浴室リモコン取付工事

ユニットバスに取り付ける場合(壁内配線)

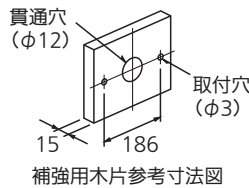


1 取付準備

- ①壁面の凹凸をなくす
※施工上のお願い(5項)を参照してください。
- ②リモコン線用貫通穴(φ10mm)、リモコン取付穴(φ6mm、2カ所)をあけ、室内側からリモコン線を通しておく

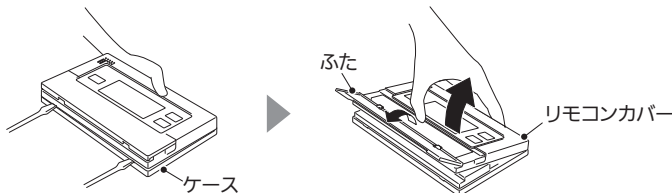


※壁パネルに取り付ける場合は、裏側に補強用の木片(現地調達品)を取り付けてください。木片にはリモコン線用貫通穴(φ12mm)とリモコン取付穴(φ3mm、2カ所)をあけ、接着剤などで壁裏面に付けます。



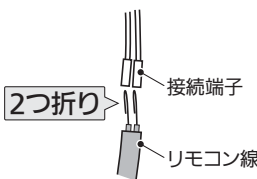
2 リモコンカバーを取り外す

- ①保護フィルムを外す
※再使用しますので捨てないでください。
- ②マイナスドライバーなどでケースのツメ(2カ所)を外す
- ③リモコンカバーをケースから外す
※ふたを開け、リモコンカバー中央部を軽く引き上げてください。



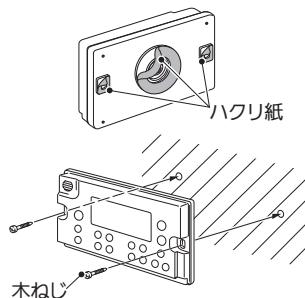
3 リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。



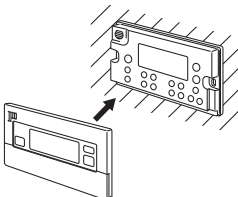
4 リモコンの固定

- ①パッキンのハクリ紙(3カ所)をはがし、リモコンを仮取付する
- ②リモコンケースを付属の木ねじ2本で壁に固定する

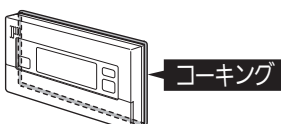


5 リモコンカバーを取り付ける (上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行くと正しく取り付けます。)

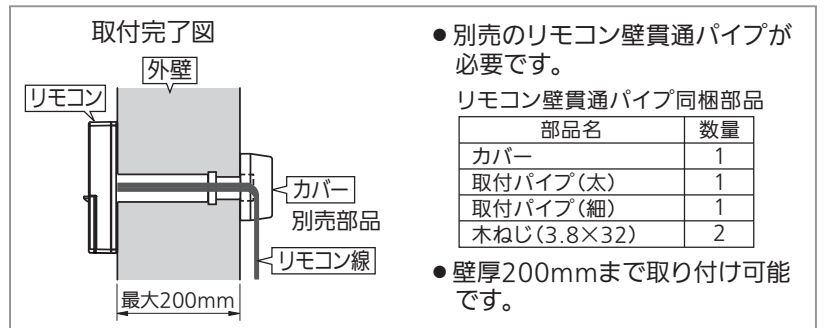
※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりが出ないように貼ってください。



6 水がリモコンの裏に入らないようシリコン系コーキング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする



コンクリート、タイルなどの壁に取り付ける場合(壁貫通)



●別売のリモコン壁貫通パイプが必要です。

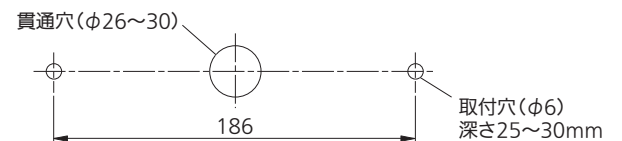
リモコン壁貫通パイプ同梱部品

部品名	数量
カバー	1
取付パイプ(太)	1
取付パイプ(細)	1
木ねじ(3.8×32)	2

●壁厚200mmまで取り付け可能です。

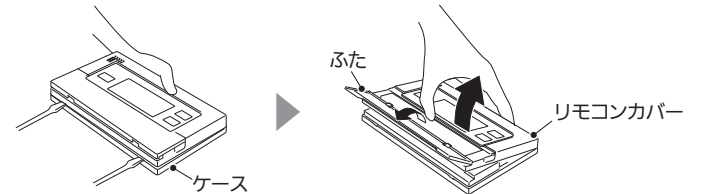
1 取付準備

- ①壁面の凹凸をなくす
※施工上のお願い(5項)を参照してください。
- ②貫通穴(φ26~30mm)、オールプラグ取付穴(φ6mm、深さ約30mm、2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込む



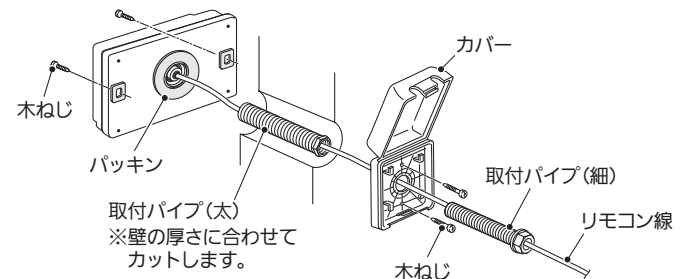
2 リモコンカバーを取り外す

- ①保護フィルムを外す
※再使用しますので捨てないでください。
- ②マイナスドライバーなどでケースのツメ(2カ所)を外す
- ③リモコンカバーをケースから外す
※ふたを開け、リモコンカバー中央部を軽く引き上げてください。



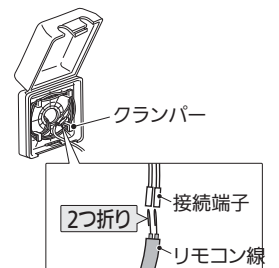
3 リモコン、カバーの固定

- ①取付パイプ(太)へリモコン線を通してリモコンにねじ込む
- ②パッキンのハクリ紙をはがし、リモコンを仮取付する
- ③リモコンを木ねじ2本で壁に固定する
- ④カバー、取付パイプ(細)にリモコン線を通し、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で固定する



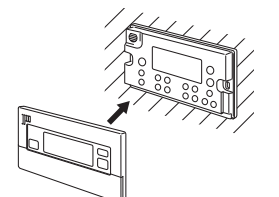
4 リモコン線の接続

- ①リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する
 - ②接続部がカバーの内側になるように、クランパーにリモコン線を巻き付けてカバーのふたをする
- ※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

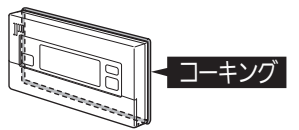


5 リモコンカバーを取り付ける (上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行くと正しく取り付けます。)

※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりが出ないように貼ってください。



6 水がリモコンの裏に入らないようシリコン系コーキング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする

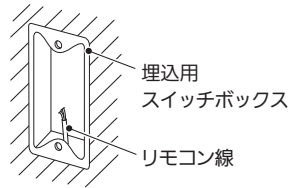


8. 台所リモコン、給湯専用リモコン、サブリモコン取付工事

リモコン線を壁中に通す場合(埋込配線)

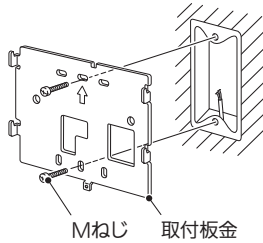
1 取付準備

- ①リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取り付けておく
- ②リモコン線を電線管に通し、貯湯ユニットまで配線しておく



2 取付板金を付属のMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する

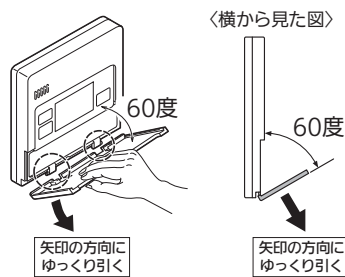
※「凸」が上になるように取り付けてください。



3 リモコンのふたを外す

※ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※ドライバーでこじ開けないでください。

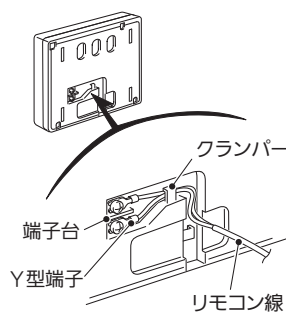


4 埋込用スイッチボックスから出ているリモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(1カ所)に固定後、端子台にねじ止める

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※リモコン線は必ずクランパーで固定してください。取付板金にかみ込み、断線のおそれがあります。

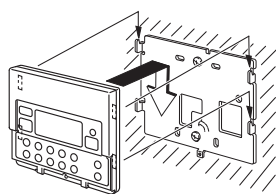


5 リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

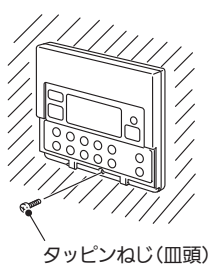
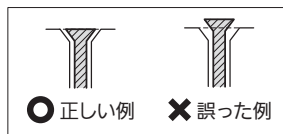
※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

※取付が正しくないと次の手順6でねじを挿入できません。



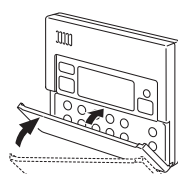
6 タッピンねじ(皿頭)で固定する

※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



7 リモコンのふたをパチンとなるように取り付ける

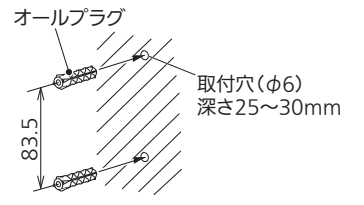
※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。



壁面に取り付ける場合(露出配線)

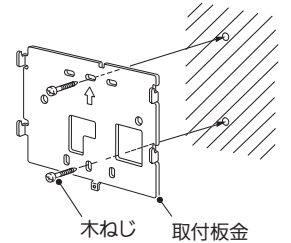
1 取付準備

- 壁がコンクリートブロックなどの場合は、オールプラグ用穴(φ6mm、深さ約30mm、2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込んでおく

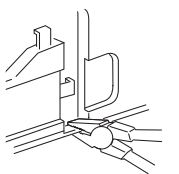


2 取付板金を付属の木ねじ2本で壁面に固定する

※「凸」が上になるように取り付けてください。



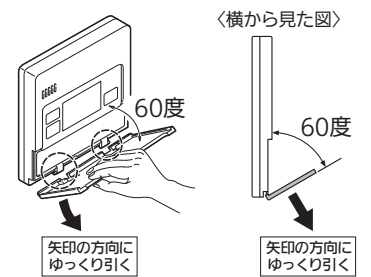
3 配線取出口をニッパーなどで切り欠く



4 リモコンのふたを外す

※ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※ドライバーでこじ開けないでください。

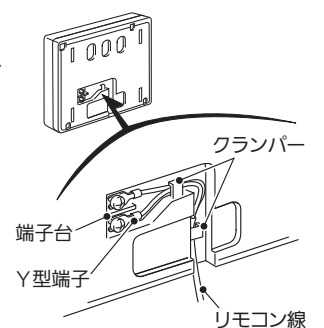


5 リモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(2カ所)に固定後、端子台にねじ止める

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※リモコン線は必ずクランパー(2カ所)で固定してください。断線のおそれがあります。

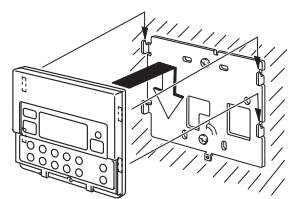


6 リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

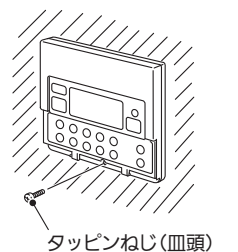
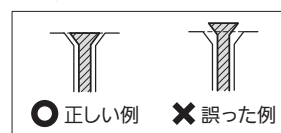
※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

※取付が正しくないと次の手順7でねじを挿入できません。



7 タッピンねじ(皿頭)で固定する

※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



8 リモコンのふたをパチンとなるように取り付け、リモコン線を壁に固定して配線する

※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。

